



梅島小だより

凡事徹底の大切さ

校長 江原 敦史

お正月の箱根駅伝で青山学院大学が見事に三連覇を達成しました。

この偉業を支えた原監督の教えについては、去年の学校だよりでも書かせていただきました。

「当たり前のことを当たり前のようにすることが大切である」ということです。

原監督は「時間厳守・掃除・礼儀・規則・食事・学業の徹底」を選手に課していました。

「当たり前のことを当たり前のようにきちんとやること」すなわち「凡事徹底」という考え方は、どの分野にも通用する大切なことがらです。

例えば、経営の神様と言われた松下幸之助さんは、次のようにおっしゃっています。

「仕事には知恵も大事、才能も大事。しかし、もっと大事なことは些細と思われること、平凡と思われることも疎かにしない心がけである」

このことも「凡事徹底」です。

松下幸之助さんには、次のようなエピソードもあります。

「松下幸之助さんは、取引先の企業を訪問された時に、販売高や利益額といった数字を見なくともその企業がうまくいっているかどうかを瞬時に見抜いた。

従業員の挨拶、整理整頓、トイレの掃除の3つを見れば大体その会社の様子は判ると松下幸之助さんは言われた」

一方教育の分野では、「非認知能力（非認知スキル）」という言葉があります。

主に幼児教育の世界で用いられる言葉ですが、忍耐力や意欲、協調性、自己制御、自尊心などを含んでいます。

OECDでは「社会情動的スキル」という言葉で表現しています。

この能力（スキル）は幼児期から育成することが大切ですが、この能力と冒頭の「凡事徹底」は密接に関連しているように思います。

目の前の一つ一つのことを丁寧にやり遂げること、このようなことを通して忍耐力や自己制御力などが身につくのだと思います。

テストでは測れないこのような能力にも今一度目を向けて、学校の教育活動を充実させて参りたいと思います。

今年もご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。